

# 令和4年度 学校経営の改革方針

令和4年 4月 1日  
鈴鹿市立愛宕小学校長

## I めざす学校の姿

### 1 学校教育目標

「知・徳・体の調和がとれ、主体的・協働的に行動できる子どもの育成」

### 2 めざす学校像

#### (1) 互いに認め合い、学び合うことで、子どもも教師も成長していく学校

- ・ 主体的・対話的な学び方により、子どもたちが確かな学びを掴み、学びに向かう力・人間性を育んでいく

#### (2) 地域や保護者に信頼され、ともに創り上げる学校

- ・ 違いが尊重され、子どもたちが安心して楽しく学ぶことができる
- ・ 地域ぐるみの教育のもと、社会の一員として積極的に地域と関わることができる

### 3 めざす教師像

#### (1) 授業の職人としての誇りを持ち、学び豊かな教育活動を創造・追求する教師

- ・ 授業や学級、子どもの事実を通して、互いに刺激を受け合い、学び合い、支え合って、ともに成長していく
- ・ 子どもや保護者一人ひとりの思いに丁寧寄り添い、ともに考え、ともに歩む

#### (2) 学校職員としての自覚と責任に基づいて組織的な対応ができる教師

- ・ 保護者・地域の学校への期待を感じ取り、学校職員として自己を調整できる
- ・ 様々な事象に、他の職員と連携して組織的に対応することができる

## II 改革の中心となる経営方針

### 1 子どもたちがこれからの社会を生き抜くことができる「学力」を育む教育活動を実現する

### 2 学校の「安全安心」を高めるため環境整備に努め、子どもたち自身の危険回避能力を高める

### 3 家庭や地域と共にある学校づくりを推進する（地域に開かれた学校の実現）

## III 経営方針の達成に向けた方策

### 1 「知」学力、「徳」道徳性、「体」健康・体力・命を守る力の調和のとれた成長を促す

#### ① 主体的・対話的な学び方を育成する授業への転換

- ・ 「学調」「みえスタ」の結果から明らかになった本校の課題（子どもたちが主体となった探究的な学習過程の充実）を、国語・算数・理科の授業や、地域教材を活用した生活科・社会科の授業、総合的な学習の時間を中心とした教科横断的・総合的な教育課程において実現する
- ・ 「ICT機器」を効果的に活用した授業研修会を年3回行い、授業DXに挑戦する
- ・ 道徳科・体育科の主体的・対話的な授業モデルを学ぶ機会を設ける

## ② 学力における基礎基本の徹底

- ・ 児童一人ひとりの思いや学習状況に寄り添い、きめ細かな声掛けや支援を行う
- ・ 読書好きの子どもを育てる教育活動を推進する（学校図書館の積極的な活用、学級文庫の充実、子どもたちの読書活動の推進）

## ③ 道徳性と自己肯定感の育成

- ・ 人権教育を充実させ、他者との違いを認め、尊重し、ともにあろうとする心情を育てる
- ・ 道徳教育の推進：子どもたちが、自己を見つめ、様々な道徳的価値についての考えを深める授業を実現する
- ・ 子どもたちの良さを認め、賞賛する言葉がけによる生徒指導を行う

## ④ 教職員の資質向上

- ・ 全教員が学期に1度は授業を自主公開し、職員同士で学び合う機会を保障する
- ・ 「5年以下研」への全職員の参画（指導案指導、参観、事後検討）により、若手教員を育成する
- ・ 外部講師の招聘等により、主体的・対話的で深い学びを生む授業モデルの共有機会を設ける

## 2 不登校対策の強化と特別支援教育の充実

- ① 特別支援コーディネーターを核とした特別支援教育の推進体制を確立する
- ② SC・SLC等を活用し、子どもたち一人ひとりの困り感に寄り添った支援を行う

## 3 地域と共にある学校づくり、安全安心な学校・地域づくりの発展

- ① HPやメール配信システム等により、地域・家庭に学校情報を積極的に発信し、学校や教育、子どもたちに対する関心を高める
- ② 学校支援ボランティア活動を充実・発展させ、地域の力を活用した教育活動・学校運営を推進する
- ③ 愛宕地域づくり協議会と連携して避難訓練、安全安心な地域づくりを行い、学校・地域の安全性を高める
- ④ 危機管理マニュアルを不断に見直し、学校の危機管理能力の維持・向上を図る

## 4 総勤務時間の縮減（教職員全員が健康で前向きに働ける職場づくり）

- ① 会議資料や保護者への配布文書のペーパーレス化、校時や校務組織の見直し、その他全職員による業務の不断の見直しにより、「時間外労働月45時間以内（年間360時間以内）」、「定時退校日の徹底」、「放課後開催の会議60分以内に終了」の全てにおいて、前年度の達成率を上回る